

かいしえんがでん

## #46 芥子園畫傳

作者：王概（おう・がい 1645-1710?）ほか

刊行：1679年（初集） - 1818年（4集）

## 📖 解題

## ■ 内容

中国の清時代の画譜。歴代の名家の山水画法を集め、手本としたもの。初集5巻、2集8巻、3集4巻、



[724. 2/1]

4集4巻から成る。ただし4集は『芥子園画伝』の流行に便乗した偽作である。

成立については、初集の李漁（号・笠翁）の序によれば、従来山水の画譜無きを李漁が嘆じたところ、娘婿の沈心友（字・因伯）が、明の画家・李流芳編訂の画譜を友人の王概に増補編集させた一書を示した。李漁はこれを見て大いに喜び、康熙18年（1679）に出版するに至ったという。この初集は出版されるや好評を博し、李漁の卒して後、康熙40年（1701）に2集、3集が刊行された。2集、3集の編集には、王概の2人の弟、王著、王臬も携わっている。4集については、沈心友がその刊行を予告し、実際に編集も進行していたが、結局出版には至らなかった。しかし前3集の人気に目を付けた出版商によって、嘉慶23年（1818）に出版された。

## ■ 伝来

『芥子園画伝』の日本への伝来については未詳だが、元禄年間（1688-1704）、或いは遅くとも元文年間（1736-1740）には伝わったとされ、寛延元年（1748）には翻刻された。訳本、注釈本の刊行も盛んに行われるようになり、江戸時

代の日本画壇、特に南画において多大な影響を及ぼした。

なお、「芥子園」とは南京にあった李漁の別荘の名に由来するが、編者である王概の書室名もまた芥子園といった。

## 📖 本文を読む

< 版本 >

『芥子園畫傳』初集－4集 [724. 2/1]

< 影印 >

『芥子園画伝：大東急記念文庫蔵』初集－3集 大東急記念文庫編 勉誠出版  
2009 [724. 1/163]

< 訓読・注釈 >

『現代語訳芥子園画伝』上下 草薙奈津子著 芸艸堂 1984, 1985 [724. 2/5]

## 📖 参考文献

平塚運一「芥子園畫傳とその異版」(上)(中)(下) (『南画研究』第2巻  
第4-6号 中央公論美術出版編 1958) [Z7217/10]

鶴田武良「『芥子園画伝』について：その成立と江戸画壇への影響」(『美術  
研究』283号 便利堂 1968) [Z705/8]

『日本南画論攷』吉沢忠著 講談社 1977 [721. 7/43]

水上典子「画業から文業へ—蕪村の『芥子園画伝』への関わり」(『武庫川女  
子大学短期大学部創立五十周年記念論文集』武庫川女子大学短期大学部創  
立五十周年記念論文集編集委員会編 武庫川女子大学日本語日本文学科  
2000) [910. 4/487]

小林宏光「中国画譜の集大成-『芥子園画伝』初集・二集・三集の全貌」、  
西上実「石濤と『芥子園画伝』」(ともに『芥子園画伝：大東急記念文庫蔵』  
初集－3集 大東急記念文庫編 勉誠出版 2009) [724. 1/163]